



FY2025 1Q

2025年度第1四半期 決算説明資料

1. 2025年度 第1四半期実績
2. 2025年度 通期業績予想
3. 参考資料



1

2025年度 第1四半期実績

2025年度 第1四半期実績

(単位：億円)

	FY2024 1Q実績	FY2025 1Q実績	前年同期比
売上高	1,524	1,818	+295
事業利益	83	57	▲27
ブラマー カカオ特殊要因	22	▲41	▲62
カカオ特殊要因を 除く実質事業利益	62	97	+36
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	53	32	▲20

売上高 1,818億円 前年同期比 +295 億円

主原料であるパーム油、パーム核油、カカオなどの原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇により増収。

事業利益 57億円 前年同期比 ▲27 億円

植物性油脂事業のチョコレート用油脂（CBE）や、業務用チョコレート事業のコンパウンドチョコレートの堅調な販売があったものの、米国ブラマーでのカカオに関連した特殊要因（以下、カカオ特殊要因）の計上を主因に減益。

四半期利益 32億円 前年同期比 ▲20 億円

植物性油脂事業の伸長は寄与したものの、ブラマーでのカカオ特殊要因に加え、非経常損失の計上などにより減益。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

2025年度 第1四半期実績／事業別

(単位：億円)

	FY2024 Q1実績	FY2025 Q1実績	前年同期比
売上高	1,524	1,818	+295
植物性油脂事業	477	632	+155
業務用チョコレート事業	736	876	+141
乳化・発酵素材事業	222	225	+3
大豆加工素材事業	89	85	▲4
事業利益	83	57	▲27
植物性油脂事業	46	90	+44
業務用チョコレート事業	33	▲33	▲66
カカオ特殊要因を除く 業務用チョコレート事業	11	8	▲3
乳化・発酵素材事業	5	1	▲5
大豆加工素材事業	▲0	▲0	▲0
連結調整	▲0	▲1	▲1
事業利益率	5.5%	3.1%	▲2.4pt

事業別 事業利益



植物性油脂

- ・チョコレート用油脂（CBE）は、販売数量の増加に加え、販売価格の上昇も増益に寄与。
- ・原材料価格の上昇は見られたものの、販売価格の適正化を継続的に実施。



業務用チョコレート

- ・ピュアチョコレートの販売は減退するも、コンパウンドチョコレートの販売は堅調に推移。
- ・ブラマーは、ピュアチョコレートの販売減少に加え、カカオ特殊要因による損失の発生により減益。



乳化・発酵素材

- ・原材料価格の上昇による採算性低下を主因に減益。
- ・日本での販売数量が減少。



大豆加工素材

- ・大豆たん白食品や機能剤の販売数量が減少。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

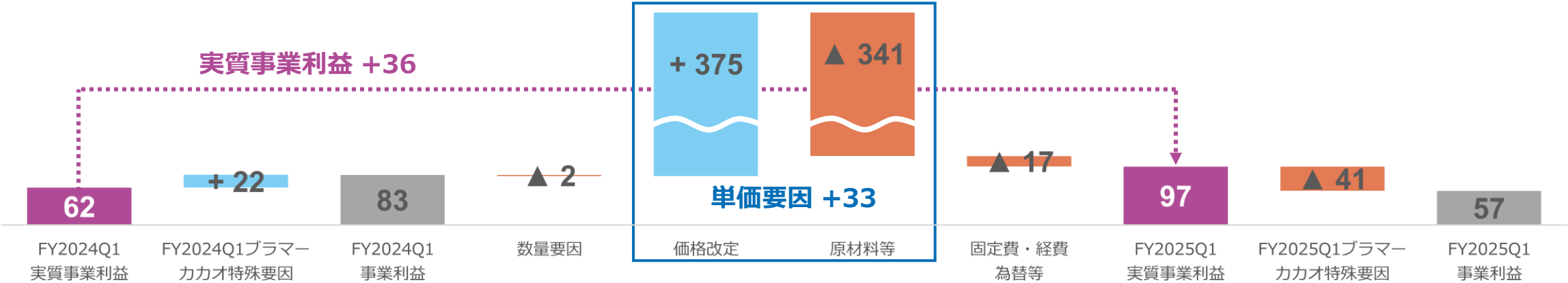
* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

2025年度 第1四半期 事業利益増減分析

CBEの需要拡大により実質事業利益は36億円増益の97億円を達成したが、ブラマーのカカオ特殊要因の影響により事業利益は27億円減益の57億円。

(単位：億円)

前年同期比 事業利益増減分析



数量要因	植物性油脂事業では、チョコレート用油脂（CBE）の伸長が寄与。 業務用チョコレート事業では、日本やブラジルは伸長も、ブラマーの販売数量は減少。
単価要因	植物性油脂事業でのパーム油、業務用チョコレート事業でのカカオ価格など、原材料価格の上昇はあったものの、販売価格適正化に加え、植物性油脂事業のチョコレート用油脂（CBE）の販売価格上昇が寄与。
固定費・経費 ・為替等	人件費等の固定費が上昇。
ブラマー カカオ特殊要因	カカオ特殊要因については7ページ参照。

* ウォーターフォールチャートにて、「ブラマーカカオ特殊要因」は「原材料等」に含まれるが、別項目として表示。
* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

重点項目：ブラマー

上期を中心にカカオ特殊要因の損失を見込むが、通期では施策効果による業績改善を見込む。

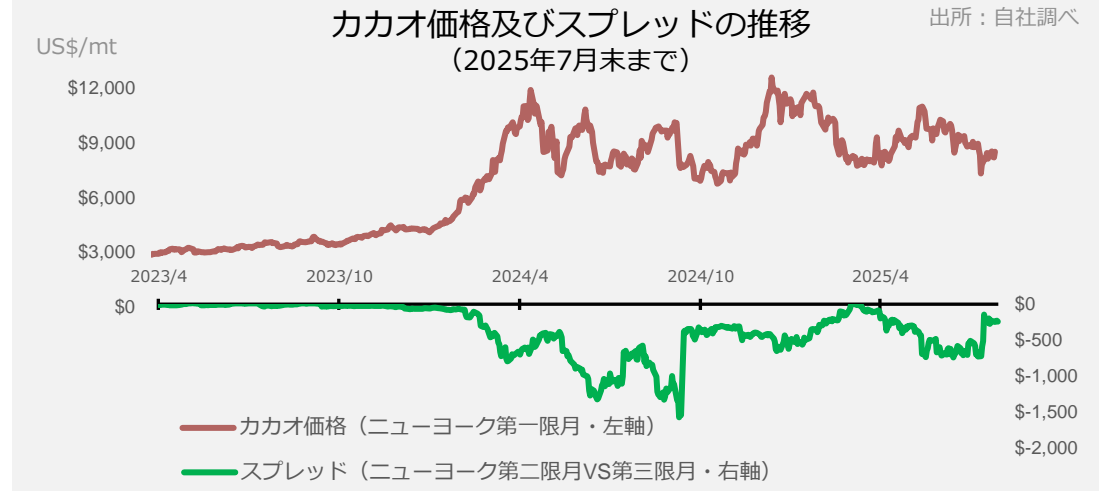
2025年度 第1四半期 ブラマー業績

(単位：億円)

	FY2024 1Q実績	FY2025 1Q実績	前年同期比
販売数量（前年同期比）	-	87%	
売上高	438	500	+62
事業利益	13	▲54	▲68
カカオ特殊要因	22	▲41	▲62
カカオ特殊要因を除く事業利益	▲8	▲14	▲5

1Q実績

カカオ 特殊 要因	先物 評価	0億円	2024年度第4四半期以降、 自社アカウントでのカカオ先物ポジションを縮減。
	販売 期ズレ	▲20億円	販売価格に対し原材料価格が先行して上昇したこと で損失が発生も、期初想定並みで推移。
	先物限月 乗換 コスト	▲20億円	一部の乗換コストの発生が第2四半期以降に後ろ倒し となり、期初想定を下回る。
カカオ特殊要因を除く 事業利益		▲14億円	ピュアチョコレートを中心に 販売数量が前年同期比で減少。



今後の見込み

引き続き、先物評価損益の発生は見込まず。

価格転嫁の浸透により第2四半期以降に改善を見込む。

上期中心にカカオ在庫の消費に応じた乗換コストの発生を見込むが、改善に向けて価格転嫁を実施済。

CBEコンパウンドの採用は進む。引き続き顧客への提案を強化。

セグメント別概況



植物性油脂

チョコレート用油脂（CBE）の販売数量は増加し、販売価格も上昇。今後も堅調な需要を見込む。

エリア別動向（前年同期比）

日本

顧客におけるCBEの配合率上昇などにより販売数量が増加。

欧米

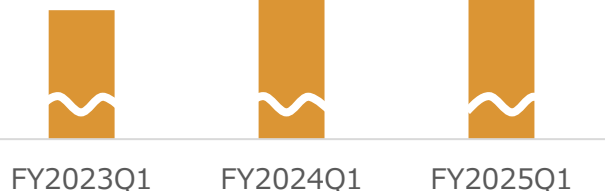
米国のCBE販売数量はチョコレート市場の停滞により微減も、販売価格は上昇。

アジア

需要拡大によりCBEの採用が進み、販売数量が増加。

チョコレート用油脂（CBE）販売数量推移
（不二製油グループ会社向けの販売を含む）

FY2025Q1
118%
（対前年同期比）



業務用チョコレート

カカオ価格上昇によりコンパウンドチョコレートの需要は堅調。今後も拡販継続。

エリア別動向（前年同期比）

日本

コンパウンドチョコレートの販売が堅調に推移。

欧米

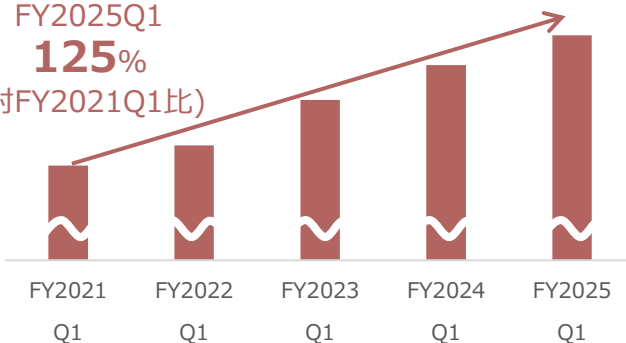
欧州でコンパウンドチョコレートの販売数量が増加。

アジア

コンパウンドチョコレートの販売は堅調も、原材料価格上昇で採算性低下。

業務用チョコレート事業 販売数量推移
（ブラマー除く）

FY2025Q1
125%
（対FY2021Q1比）



乳化・発酵素材

原材料価格上昇により採算性が低下。第2四半期以降の改善に向けて価格適正化、拡販を進める。

エリア別動向（前年同期比）

日本

販売数量が前年同期比で減少。第2四半期以降の拡販図る。

アジア

景況感低迷の影響があるものの、中国の販売数量は増加傾向。



大豆加工素材

大豆たん白食品、機能剤の販売数量が減少。事業の再構築と新製品の展開を強化。

エリア別動向（前年同期比）

日本

需要低調で販売数量は減少も、課題解決型製品の展開により拡販を進める。

B/S・C/F

有利子負債は上期中に高水準で推移するものの、下期には収益力の向上や運転資本の効率化に伴い減少を見込む。

B/S

(単位：億円)

	FY2024期末 (IFRS)	FY2025Q1期末 (IFRS)
現金及び現金同等物	708	343
棚卸資産	1,607	1,778
のれん	208	329
資産合計	5,971	6,080
有利子負債	2,837	2,885
負債合計	3,862	3,979
利益剰余金	1,509	1,519
資本合計	2,109	2,101

C/F

(単位：億円)

	FY2024Q1 (IFRS)	FY2025Q1 (IFRS)
営業債権の増減額 (▲は増加)	▲106	1
棚卸資産の増減額 (▲は増加)	▲242	▲128
営業CF	▲382	▲126
投資CF	▲44	▲234
FCF	▲426	▲360
短期借入金の純増減額 (▲は減少)	416	38
財務CF	471	5

・2025年度 第1四半期末

資産 原材料価格の上昇や新規連結会社の取得により資産が増加。

負債 新規連結会社の取得に伴い有利子負債が増加。

・2025年度 第1四半期

営業CF 棚卸資産の増加があり、営業CFは126億円の支出。

投資CF 新規連結会社の取得に伴い、投資CFは234億円の支出。

第1四半期：売上高・事業利益（事業別・所在地別マトリクス）

(単位：百万円)

売上高	年度	日本		欧米		アジア		連結計	
			YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2025 1Q実績 (IFRS)	18,990	+4,823	32,353	+7,800	11,853	+2,885	63,197	+15,509
	2024 1Q実績 (IFRS)	14,167	-	24,552	-	8,968	-	47,688	-
業務用 チョコレート	2025 1Q実績 (IFRS)	16,006	+4,126	62,220	+8,887	9,415	+1,054	87,641	+14,068
	2024 1Q実績 (IFRS)	11,879	-	53,332	-	8,360	-	73,573	-
乳化・発酵素材	2025 1Q実績 (IFRS)	15,040	+451	-	-	7,446	▲130	22,486	+320
	2024 1Q実績 (IFRS)	14,589	-	-	-	7,576	-	22,166	-
大豆加工素材	2025 1Q実績 (IFRS)	8,342	▲410	-	-	161	▲23	8,504	▲433
	2024 1Q実績 (IFRS)	8,753	-	-	-	185	-	8,938	-
売上高計	2025 1Q実績 (IFRS)	58,380	+8,991	94,573	+16,688	28,876	+3,785	181,831	+29,465
	2024 1Q実績 (IFRS)	49,389	-	77,885	-	25,091	-	152,366	-

事業利益	年度	日本		欧米		アジア		連結調整		連結計	
			YOY		YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2025 1Q実績 (IFRS)	2,944	+1,755	3,155	+827	3,162	+1,714	▲249	+139	9,014	+4,437
	2024 1Q実績 (IFRS)	1,189	-	2,328	-	1,447	-	▲388	-	4,576	-
業務用 チョコレート	2025 1Q実績 (IFRS)	1,857	+363	▲5,698	▲6,658	459	▲381	78	+114	▲3,302	▲6,562
	2024 1Q実績 (IFRS)	1,494	-	960	-	840	-	▲35	-	3,259	-
乳化・発酵素材	2025 1Q実績 (IFRS)	252	▲287	-	-	▲294	▲333	111	+164	70	▲456
	2024 1Q実績 (IFRS)	540	-	-	-	39	-	▲52	-	527	-
大豆加工素材	2025 1Q実績 (IFRS)	164	+48	▲204	+1	87	+1	▲75	▲76	▲27	▲25
	2024 1Q実績 (IFRS)	115	-	▲205	-	86	-	1	-	▲2	-
連結調整	2025 1Q実績 (IFRS)	▲45	▲31	8	+117	▲138	▲146	84	▲15	▲91	▲76
	2024 1Q実績 (IFRS)	▲14	-	▲108	-	7	-	100	-	▲14	-
事業利益計	2025 1Q実績 (IFRS)	5,174	+1,848	▲2,737	▲5,712	3,276	+855	▲50	+325	5,663	▲2,682
	2024 1Q実績 (IFRS)	3,325	-	2,974	-	2,421	-	▲375	-	8,346	-

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。



2

2025年度 通期業績予想

2025年度 通期業績予想

チョコレート用油脂（CBE）の堅調な販売は継続、下期にブラマーカカオ特殊要因改善を見込む。

通期業績予想

2025年5月発表の通期連結業績予想から変更は無し。

2025年度通期は、植物性油脂事業におけるチョコレート用油脂（CBE）の堅調な販売の継続に加え、

下期以降の米国ブラマーでのカカオ特殊要因の解消による業績改善を見込む。

引き続き、カカオやパームの原材料価格の動向に加え、米国でのチョコレート市場の需要動向がリスク要因となるものの、チョコレート用油脂（CBE）やコンパウンドチョコレートの販売拡大、カカオ特殊要因の早期解消を進める。

（単位：億円）

	FY2024実績 (IFRS)	FY2025予想 (IFRS)	前期比
売上高	6,712	8,000	+1,288
事業利益	133	295	+162
ブラマーカカオ特殊要因	▲305	▲30	+275
カカオ特殊要因を除く 実質事業利益	438	325	▲113
親会社の所有者に帰属する 当期利益	39	165	+126

第2四半期以降の見通し



植物性油脂

日本、アジアを中心としたチョコレート用油脂（CBE）の堅調な販売の継続を見込む。



業務用
チョコレート

コンパウンドチョコレートの堅調な需要を見込むが、前年度の原料差益の剥落を想定。
ブラマーはカカオ特殊要因の改善を下期に見込む。



乳化・
発酵素材

日本、中国を中心に、
価格適正化により採算性の改善を見込む。



大豆
加工素材

日本での販売数量の増加を見込む。

* 2025年5月決算公表資料においては前連結会計年度実績を日本基準の会計基準変更の主な項目を反映させた参考値として掲載していたが、2025年度第1四半期より前連結会計年度実績はIFRSベースに組み替えて表示。

* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

通期：売上高・事業利益（事業別・所在地別マトリクス）

(単位：億円)

売上高	年度	日本		欧米		アジア		連結計	
			YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2025 予想 (IFRS)	720	+65	1,275	+310	490	+36	2,485	+412
	2024 実績 (IFRS)	655	-	965	-	454	-	2,073	-
業務用 チョコレート	2025 予想 (IFRS)	660	+80	3,018	+675	480	+55	4,158	+811
	2024 実績 (IFRS)	580	-	2,343	-	425	-	3,347	-
乳化・発酵素材	2025 予想 (IFRS)	640	+28	-	-	360	+29	1,000	+57
	2024 実績 (IFRS)	612	-	-	-	331	-	943	-
大豆加工素材	2025 予想 (IFRS)	350	+6	2	+2	5	▲1	357	+8
	2024 実績 (IFRS)	344	-	-	-	6	-	349	-
売上高計	2025 予想 (IFRS)	2,370	+180	4,295	+987	1,335	+120	8,000	+1,288
	2024 実績 (IFRS)	2,190	-	3,308	-	1,215	-	6,712	-

事業利益	年度	日本		欧米		アジア		連結調整		連結計	
			YOY		YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2025 予想 (IFRS)	62	▲30	73	▲8	62	▲36	-	+4	197	▲71
	2024 実績 (IFRS)	92	-	81	-	98	-	▲4	-	268	-
業務用 チョコレート	2025 予想 (IFRS)	46	▲42	37	+314	22	▲37	-	+13	106	+247
	2024 実績 (IFRS)	88	-	▲276	-	59	-	▲13	-	▲142	-
乳化・発酵素材	2025 予想 (IFRS)	12	▲7	-	-	1	+1	-	+2	13	▲4
	2024 実績 (IFRS)	19	-	-	-	0	-	▲2	-	17	-
大豆加工素材	2025 予想 (IFRS)	7	+11	▲7	+1	2	▲1	-	▲0	2	+10
	2024 実績 (IFRS)	▲4	-	▲8	-	3	-	0	-	▲8	-
連結調整	2025 予想 (IFRS)	-	+0	-	+0	-	+1	▲22	▲21	▲22	▲20
	2024 実績 (IFRS)	▲0	-	▲0	-	▲1	-	▲1	-	▲2	-
事業利益計	2025 予想 (IFRS)	127	▲68	103	+306	88	▲72	▲22	▲3	295	+162
	2024 実績 (IFRS)	195	-	▲203	-	160	-	▲19	-	133	-

* 2025年5月決算公表資料においては前連結会計年度実績を日本基準の会計基準変更の主な項目を反映させた参考値を掲載していたが、2025年度第1四半期より前連結会計年度実績はIFRSベースに組み替えて表示。

3

参考資料

注記

IFRSの任意適用について

- ・2025年度第1四半期より国際財務報告基準（IFRS）を適用。
- ・業績管理指標として「事業利益」を設定。

会計基準変更による影響 (単位：億円)

	FY2024 Q1実績	FY2024 通期実績
営業利益（日本基準）	74	99
+ 会計基準差異の調整	+6	+17
+ その他営業外収益/費用・為替差損益	+0	+3
+ 持分法投資損益	+3	+13
事業利益（IFRS）	83	133

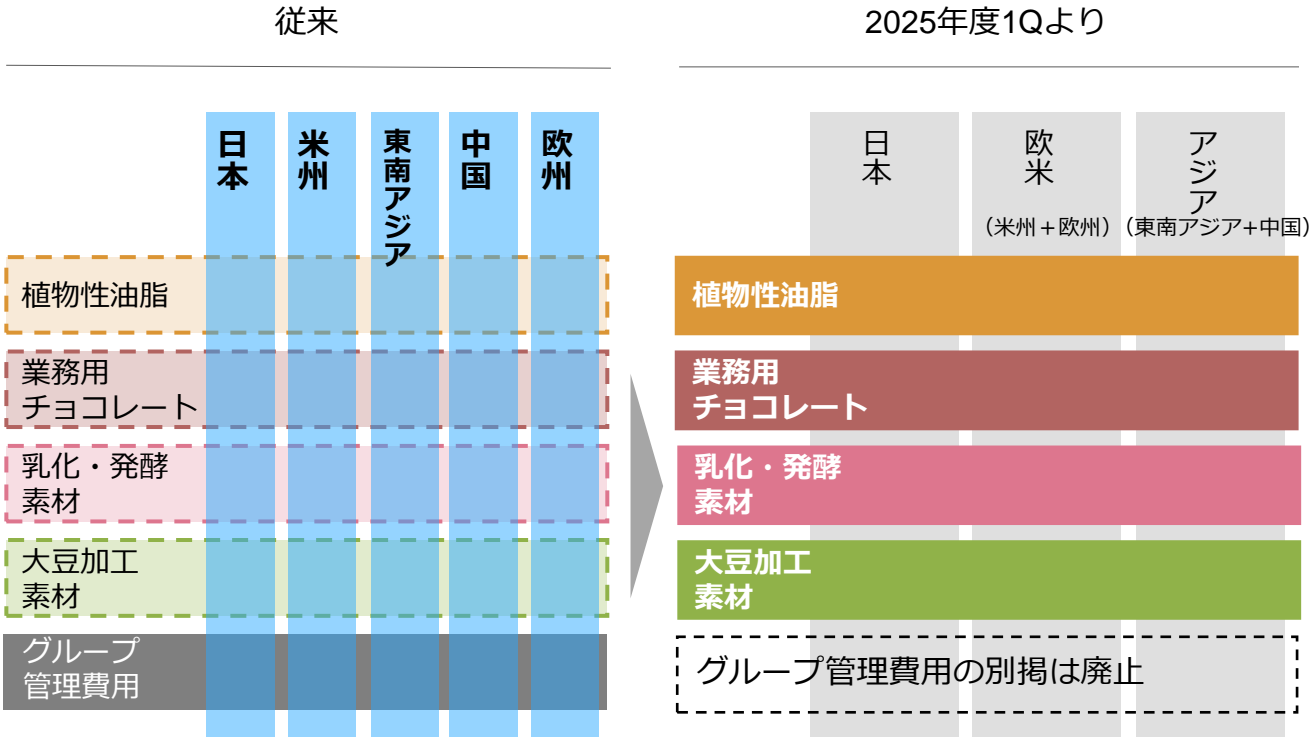
為替レート

		2024年度 1Q	2024年度 期末	2025年度 1Q	前期比		2025年度 予想前提
					差	増減率	
\$	P/L	155.88	152.58	144.59	▲ 11.29	▲ 7.2%	150.00
	B/S	161.07	149.52	144.81	▲ 4.71	▲ 3.2%	-
BRL	P/L	29.89	27.26	25.53	▲ 4.36	▲ 14.6%	26.60
	B/S	28.98	26.04	26.54	+0.50	+1.9%	-
€	P/L	167.88	163.75	163.80	▲ 4.08	▲ 2.4%	166.70
	B/S	172.33	162.08	169.66	+7.58	+4.7%	-
人民 元	P/L	21.48	21.10	19.99	▲ 1.49	▲ 6.9%	21.50
	B/S	22.04	20.59	20.19	▲ 0.40	▲ 1.9%	-

・P/L：期中平均レート、B/S：期末レート

マネジメントアプローチに基づくセグメント情報の変更

- ・2025年度よりグループ本社制（純粋持株会社制）から事業持株会社制へ移行。
- ・マネジメントアプローチに基づき、事業損益の実態をより適切に反映させるため、2025年度よりグループ共通経費を各事業に配賦し、開示エリアは日本、欧米、アジアの3エリアに変更。



事業別業績推移



植物性油脂

(単位：億円)

	日本基準			IFRS		
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	223	290	492	457	477	632
Q2	247	326	522	471	490	
Q3	252	347	523	469	550	
Q4	262	385	498	457	556	
通期	984	1,350	2,034	1,854	2,073	632

	日本基準			IFRS		
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	18	21	16	31	44	90
Q2	16	22	17	44	64	
Q3	22	14	19	42	72	
Q4	23	17	18	37	82	
通期	79	74	70	154	263	90



業務用チョコレート

(単位：億円)

	日本基準			IFRS		
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	353	417	479	550	736	876
Q2	398	459	576	616	823	
Q3	470	502	619	701	861	
Q4	404	477	611	667	927	
通期	1,624	1,855	2,285	2,534	3,347	876

	日本基準			IFRS		
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	20	11	10	4	29	▲33
Q2	8	17	17	3	▲95	
Q3	26	24	14	▲10	▲113	
Q4	22	23	9	21	21	
通期	76	75	50	18	▲158	▲33

- * 2020年度～2024年度は、日本基準の営業利益。2025年度以降はIFRSでの事業利益。
- * 2024年度まで全社費用としてセグメントに配分していないグループ管理費用を、2025年度よりセグメントに配分して記載。
- * 上記の業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

事業別業績推移

不二製油株式会社



乳化・発酵素材

(単位：億円)

	日本基準				IFRS	
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	165	190	225	215	221	225
Q2	168	187	221	222	231	
Q3	196	218	252	243	259	
Q4	167	197	214	220	230	
通期	696	791	912	899	942	225

	日本基準				IFRS	
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	2	7	2	6	9	1
Q2	6	3	▲2	9	9	
Q3	16	7	9	16	13	
Q4	6	▲0	6	8	4	
通期	30	16	15	38	34	1



大豆加工素材

(単位：億円)

	日本基準				IFRS	
売上高	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	86	90	83	89	90	85
Q2	87	85	86	91	91	
Q3	88	86	89	92	89	
Q4	83	80	85	83	81	
通期	344	342	343	355	351	85

	日本基準				IFRS	
事業利益	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	12	11	6	4	3	▲0
Q2	9	6	4	6	5	
Q3	6	3	4	3	▲0	
Q4	5	0	▲1	▲2	▲1	
通期	32	21	13	10	7	▲0

- * 2020年度～2024年度は、日本基準の営業利益。2025年度以降はIFRSでの事業利益。
- * 2024年度まで全社費用としてセグメントに配分していないグループ管理費用を、2025年度よりセグメントに配分して記載。
- * 上記の業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

主要指標（PL項目）

主要指標

大項目	項目	単位	備考	IFRS					FY2025 予想
				FY2024	1Q	2Q	3Q	4Q	
PL項目	事業利益	億円		133	57				295
	事業利益成長率	%		-	▲32.1%				-
	EBITDA	億円		307	96				-
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	278	78				-
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	160	39				-
	ROA	%	税引前当期利益÷総資産	1.3%	2.2% ^{*3}				4.0%
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率 ×財務レバレッジ	1.8%	6.3%				7.7%
	売上高純利益率	%	親会社の所有者に帰属する当期利益÷売上高	0.6%	1.8%				2.1%
	総資産回転率	回	売上高÷総資産	1.25	1.20				1.39
	財務レバレッジ	倍	総資産÷親会社の所有者に帰属する持分	2.9	3.0				2.6
	FUJI ROIC	%	税引後事業利益÷(運転資本+固定資産+持分法投資)	2.1%	3.4%				4.5%

年度	設備投資額 内訳	億円
2025 1Q	植物性油脂事業 日本設備投資等	16
	業務用チョコレート事業 ブラマー設備投資等	36
	乳化・発酵素材事業 日本設備投資等	17
	大豆加工素材事業 日本設備投資等	6
	計	78

*1 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。

*2 2025年度第1四半期より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

*3 ROA、ROE、FUJI ROIC：年間換算した参考値を記載。

主要指標（BS・CF項目）

主要指標

大項目	項目	単位	備考	IFRS					FY2025 予想
				FY2024	1Q	2Q	3Q	4Q	
BS項目	総資産	億円		5,971	6,080				5,750
	有利子負債	億円		2,837	2,885				2,285
	NET有利子負債	億円		2,129	2,542				2,085
	NET運転資本	億円	流動資産-流動負債	881	549				-
	親会社所有者帰属持分比率*3	%		34.7%	33.9%				38.5%
	負債比率	%		186.6%	193.2%				-
	のれん(広義)	億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、 その他無形固定資産等を含んだもの	484	595				-
	のれん(広義)資本比率	%		23%	28%				-
	D/Eレシオ	倍	有利子負債÷親会社の所有者に帰属する持分	1.37	1.40				-
	Net D/Eレシオ	倍	Net有利子負債（有利子負債-現預金） ÷株主資本*4	1.25	1.48				1.11
CF項目	営業キャッシュフロー	億円		▲491	▲126				500
	投資キャッシュフロー	億円		▲218	▲234				▲400
	フリーキャッシュフロー	億円		▲708	▲360				100
	財務キャッシュフロー	億円		1,134	5				▲650
	CCC	日		123	118				100

*1 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。

*2 2025年度第1四半期より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用。前連結会計年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

*3 日本基準における自己資本比率。

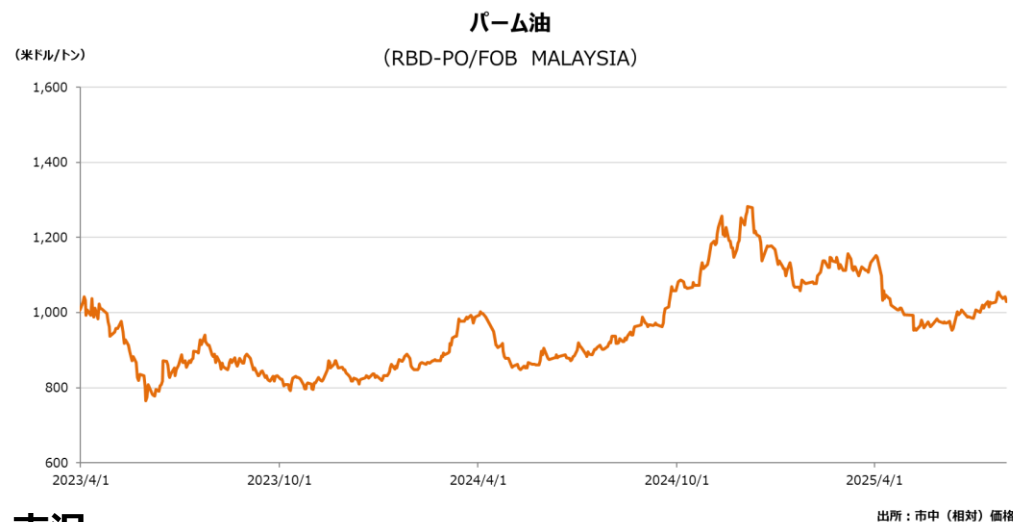
*4 株主資本：親会社の所有者に帰属する持分 - その他の資本の構成要素

主要製品群の販売数量推移（前年同期比）

セグメント	エリア	製品群	2024年度 実績					2025年度 実績				
			1 Q	2 Q	3Q	4Q	Total	1 Q	2 Q	3Q	4Q	Total
植物性油脂	日本	チョコレート用油脂 (CBE、CBR、CBS)	106%	106%	110%	101%	106%	102%				
	米州		84%	89%	94%	75%	85%	76%				
	東南アジア		104%	137%	117%	109%	116%	108%				
	欧州		102%	94%	95%	90%	95%	112%				
業務用 チョコレート	日本	チョコレート (カカオ製品含む)	103%	102%	99%	103%	102%	100%				
	米州(ブラジル)		98%	99%	108%	105%	103%	125%				
	東南アジア		117%	113%	107%	111%	112%	96%				
	中国		110%	96%	118%	81%	101%	96%				
	欧州		107%	101%	115%	81%	101%	94%				
	合計(ブラマー除く)		106%	103%	106%	103%	105%	105%				
	ブラマー		84%	77%	76%	78%	79%	87%				
	合計（ブラマー含む）		95%	91%	93%	93%	93%	97%				
乳化・発酵素材	日本	クリーム	98%	97%	93%	101%	97%	101%				
		マーガリン ショートニング	101%	102%	100%	97%	100%	96%				
	東南アジア	クリーム	97%	109%	118%	111%	109%	86%				
	中国	マーガリン ショートニング	88%	95%	126%	92%	100%	117%				
		フィリング	104%	108%	95%	106%	103%	93%				
大豆加工素材	日本	大豆たん白素材	100%	102%	96%	100%	99%	99%				
		機能剤	99%	92%	106%	96%	98%	89%				

* 製品区分の見直し等により、過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき記載。
* 2024年度に決算期変更を実施したブラマーの販売数量推移は前年同月との比較。

主要原料推移 (～2025年7月末)



市況

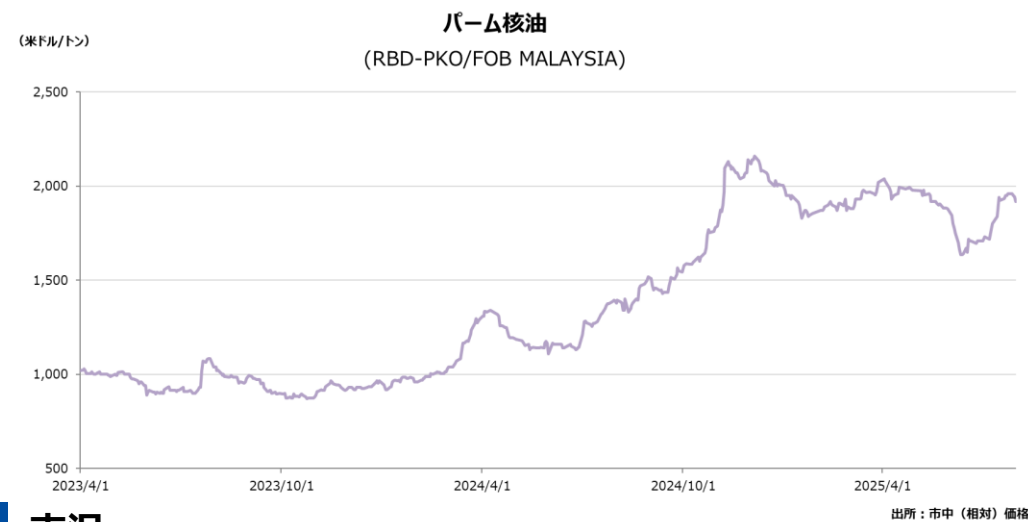
2025年4月から6月においては生産量回復の見込み、パーム油の割高感から他油種への需要シフトや、米国の関税政策による景気後退懸念により相場は下落したが、7月末時点では中東情勢やバイオ燃料用途での堅調な需要により上昇傾向。

（強材料）

価格競争力を背景としたインドや中国での堅調な需要。
バイオ燃料用途での需要増加。

（弱材料）

世界的な景気後退懸念。



市況

2025年4月から6月においては在庫量増加から相場は下落傾向であったが、7月末時点ではヤシ油の生産量減少の懸念、バイオ燃料用途の需要増によるヤシ油価格の上昇に伴い、パーム核油相場も上昇。

（強材料）

ヤシ油の減産懸念。
ヤシ油のバイオ燃料用途での需要増に伴うパーム核油相場の連れ高。

（弱材料）

ヤシ油の相場下落によるパーム核油相場の需給バランス正常化。

主要原料推移 (～2025年7月末)



市況

主要生産地の西アフリカの天候は引き続き不安定であり生産への懸念が継続も、西アフリカ以外の産地では生産期待が高まっている模様。7月末時点では降雨継続による収穫改善期待、需要減退見通しにより相場は下落したが、価格は高水準で推移。

(強材料)

生産地での天候懸念。

カカオ農家の金採掘転向による減産懸念。

(弱材料)

チョコレート価格高騰による消費者の消費意欲の低下。



市況

米国と中国の貿易の不透明感やバイオ燃料需要は続くものの、産地における良好な天候による生産量増加の見込みにより相場は低調に推移。

(強材料)

バイオ燃料需要の増加。

(弱材料)

南米産大豆の豊作見通し。

米国と中国の貿易摩擦。

主なトピックス、ピックアップ

EXPO2025（大阪・関西万博）のORA外食パビリオン 「宴～ UTAGE ～」において、期間限定イベントのお知らせ

不二製油株式会社は、EXPO2025（以降大阪・関西万博）のORA外食パビリオン「宴～ UTAGE ～」内に、期間限定の体験プログラムを実施します。

当社は「植物性素材でおいさと健康を追求し、サステナブルな食の未来を共創します。」とのビジョンを掲げ、社会やお客様の課題を植物性素材により解決する、課題解決型企業を目指しています。大阪・関西万博のテーマ、「いのち輝く未来社会のデザイン」のもと、当社は「ミライのおいしい、発明中!」と題した各種プログラムを開催いたします。独自の技術や製品を用いた食のミライを、是非ご体感ください。

- 開催期間 2025年8月13日～9月12日（除く、8月18日～8月24日）
- 開催場所 西ゲートゾーン W05 ORA外食パビリオン「宴～ UTAGE ～2F宴ラボ」
- プログラム
 - ・ミライチョコ診断
 - ・ミライチョコスクール
 - ・ミライレシピ体験会
 - ・オールパーパス・フォーラム
 - ・THE RAMENS -Ramen Maker presents.



MIRA-Dashi（ミラダシ）シリーズから粉末タイプを新発売

不二製油株式会社は、動物性原料や香料を用いることなく、白湯（パイタン）のような風味を実現する植物性ダシの粉末製品「MIRA-Dashi C820P」の発売を開始しました。

大豆たん白と油脂の技術融合により生まれた技術ブランド「MIRACORE®」は、植物性素材で動物性食品特有の満足感・風味を表現し、同技術を用いた植物性ダシ製品「MIRA-Dashi®」シリーズとして、これまでにチキン、ビーフ、白湯、カツオ、貝タイプの5製品を展開しています。これらの製品はラーメンをはじめ和洋中の料理に広く利用され、高まるインバウンド需要を捉え、外食業界やホテル業界など多くのご関心をいただいております。

海外でもラーメン人気は高まっており、それに伴う関連製品の需要も多くある一方で、国によっては畜肉エキスの規制があり、輸入が制限されています。弊社のMIRA-Dashi®シリーズは植物性原料を使用していることから、当規制に該当しませんが、チルド帯での流通・保管を必要とする点は、製品の海外輸出における課題でした。

今回新発売するMIRA-Dashi C820Pは、白湯タイプであるMIRA-Dashi C800の「粉末タイプ」の新製品です。粉末化によって、生産工場でのハンドリングが更に容易になるだけでなく、常温流通・保管が可能となり、国内展開のみならず海外輸出に対する課題も低減されます。当社は植物性ダシの更なる海外展開を推進します。

地球温暖化による収穫や品質への影響、食文化の多様性、人手不足など、食に関わる様々な変化や課題に対し、引き続き当社は、お客様の課題に寄添い、植物性素材の知見をいかした製品開発を通じて社会に貢献します。





不二製油株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。